

平成二十九年九月の收穫（乾）

土屋 博

一「訂正増補 日本政記論文講義 上下」河村北溟先生講述

（作人館、明治三十年訂正増補第二版、正價金五拾錢、二七六二八〇頁）

古書價格千圓也。小生、同著者の「論文日本政記講義」（誠之堂）を既に所有するも、本書序文に「本書は初學者向けの全然異なるものなり」とあれば購入す。

二「枕頭山水 全」露伴子著

（博文館、明治三十四年七版、定價金拾五錢、二二二頁）

古書價格八百圓也。初版は明治二十六年。文語の苑にて紀行文集作成の動きあることを受け、そのための準備として購入す。目次は、易心後語、地獄溪日記、まき筆日記、突貫紀行、酔興記。

三「少年鑑」巨理章三郎著

（弘道館、明治四十一年刊、定價金壹圓七拾錢、四一四頁）

古書價格千圓也。既にご紹介済みの同じ著者による名著「日本青年鑑」（大正六年刊）の姉妹書。前篇は蒲生氏郷、山崎闇斎、朱熹、徳川光圀など五十九人、後篇は、頼山陽、佐久間象山、松崎觀海、宇田川玄隨など五十一人を扱ふ。ビスマーク、グラント、リンカーン、ガリバルズなど外國人も多数収録したるところに当時の東西に學ばんとする心意氣を感じず。

四「山陽外史 全」中川克一著

（至誠堂、明治四十四年刊、定價金七拾錢、本文二九九頁）

古書價格五百圓也。本書を購入するは二回目（前回は表紙ハードカバー定價八拾五錢、今回は普通紙使用定價七拾錢）。目次は、序論、日本外史讀法、山陽外史本傳、逸事逸話、年譜より成る。

五「今日の書面」樋渡正一著

（文陽堂、明治四十四年初版、定價壹圓八拾錢、八二八頁）

古書價格三百圓也。本書を購入するは三回目。今回の初版表紙は紺色、一方再版分表紙は茶色なり。明治四十三年一月一日より十二月三十一日まで東京朝日新聞に掲載せられたるもの。偉人英雄、哲人碩學、才媛烈婦等の書簡及び文書を撰輯せるものなり。

六「山陽詩鈔註釈 全」奥山正幹遺著

（山陽詩鈔出版會、大正三年刊、本文一三三三頁）

古書價格八千圓也。叢文閣にて購入す。たとへば、頼山陽十三歳の詩、冒頭部分の奥山譯は、以下の如し。「吾今熟々首を回らして考へ見るに、生れてより屈指すれば既に十二年の年月は已に流水の如く夢中に過ぎ去りて今年予が十三歳の春秋を迎へたり」と。

七「日本及日本人臨時増刊 現代名家文章大觀」

（政教社、大正五年刊、定價七拾錢、五八一頁）

古書價格三千圓也。日本及日本人の増刊號は讀み応へあり。「現代の文體は如何に統一せらるべきか、作文上の用意苦心、我が愛誦する文章、我が文章觀」の四点につき、当時の名士百六十六名の回答あり。中に男爵澁澤榮一の「候文に三段四段の變化」なる記事もあり。曰く、「此の頃の候文を見れば、同じ候文の中にしても、取り入れた内容が豊富になつて居る。將來此等の文體はどう變つて行くか、世の中はますます複雑になつて行く今日より退化するとは思はれない、何等かの進歩を欲求する、然らば行き

つく所はどこか、どの文體か、曰く言ひ難し、各人の想像に任せて、それは甚だ興味ある問題であると云ふ事より今は言ひ得ないのである」と。

八「日本外史論文段解 全」三島中洲先生著

(二松學舎藏版、大正八年三版、定價金四拾錢、七六頁)

古書價格二百圓也。十九の論文のうち、たとへば、第一論の主意は、言王家自失其兵權、而源平二氏起執天下兵權、故權字一篇眼目。なほ、本書の舊所有者名は劍持久なる人物にて、其の自署あり。

九「勤王文庫 第四編傳記集」

(大日本明道會、大正八年、定價金參圓五拾錢、二九一頁)

古書價格七百圓也。天金。五十頁に及ぶ候文形式の大久保利通「萬延日記」(安政七年)などやや事務的に過ぎ難解なるも興味深し。編者によらば、「大久保利通の萬延日記は櫻田事變の消息を詳かにし、且未來の大政治家が國事多難の際、如何に綿密周到にその日の出來事を記録せしかを見るに足る」由。

十「勤王文庫 第五編詩歌集」

(大日本明道會、大正十四年八版、定價金五圓、二九一頁)

古書價格七百圓也。初版は大正十年。天金。たとへば、賴山陽の歌としては、次の今様掲載せらる。「花よりあくる三吉野の 春のあけぼの見せたらば もろこし人も高麗人も やまと心になりぬべし」。賴山陽の詩としては、「楠河州の墳に謁して作有り」、「楠公子に別るる圖」、「筑後河を下り菊池正觀公の戦處を過ぎ感じて作あり」など掲載せらる。

十一「應用自在廣文範」大町桂月編著

(敬文館、大正十四年再版、特價金四圓、一一五八頁)

古書價格二千五百圓也。初版は大正九年。「文章寶鑑」と類似の名著。目次を見るに、作文法、書簡文、文章諸體(詔・勅・國書・上奏・表・檄など)、議論文(學藝・人事)、舒事文(天象・地文・四季・博物)、抒情文(人物・表情、感情・衣食・人生・軍旅・邦土)と云つた具合。文章諸體の記の箇所には賴山陽の「耶馬溪圖卷の記」掲載せらる。

十二「獨修近古史談講義」久保天隨講述

(文陽堂、大正十四年再版、定價金九拾錢)

古書價格百圓也。緒言に曰く、「大槻盤溪翁の近古史談は其册簡單にして且つ要領を摘録し加ふるに其文章の妙自ら讀者をして愉快を感じしめ知らず識らず終了するを得。故に輓近各學校に於て既に編せらると個人的修養の好良書となるは普く世人の知る所なり」と。

(平成二十九年十月二十三日受附)